FD Information

令和３年６月２５日　第 44 号

大垣女子短期大学　総合教育センター　FD 専門部会

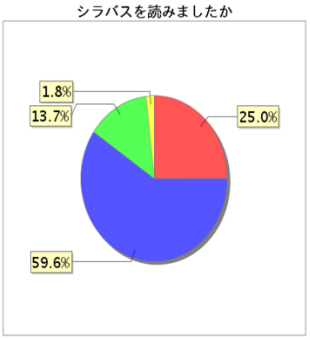
後期授業評価　『学生から教員の方々へ』

令和２年度後期に学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

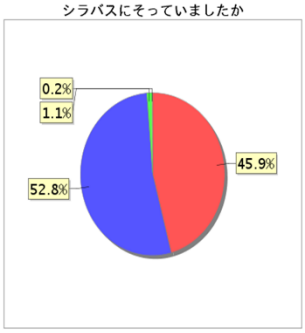
□ 講義系授業の結果

●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

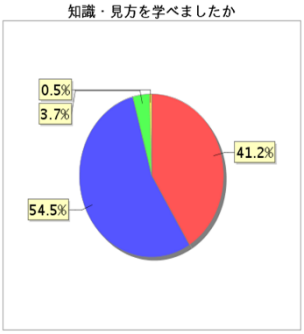
シラバスを読みましたか



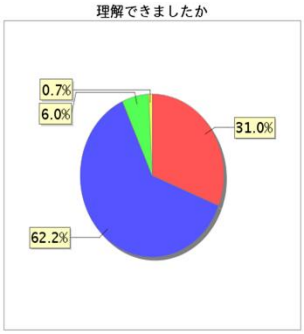
シラバスにそっていましたか



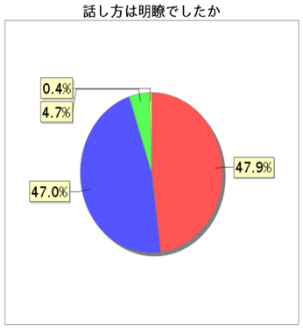
知識・見方を学べましたか



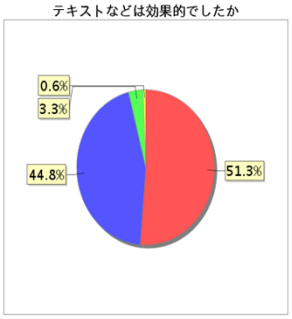
理解できましたか



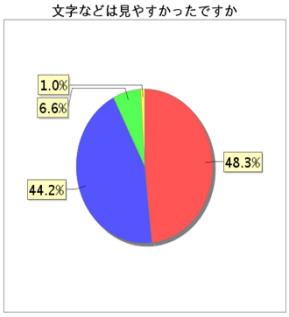
話し方は明瞭でしたか



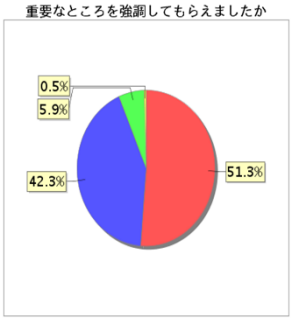
テキストなどは効果的でしたか



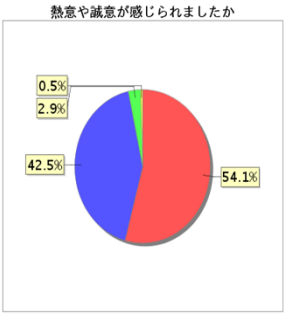
文字などは見やすかったですか



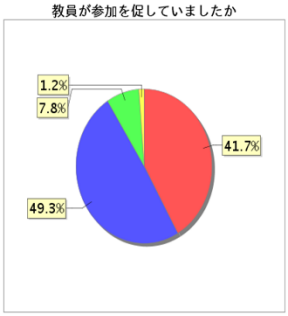
重要なところを強調してもらえましたか



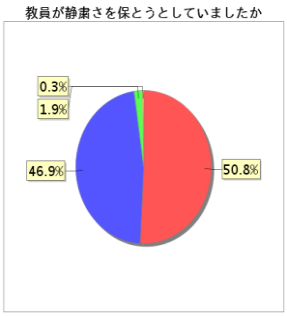
熱意や誠意が感じられましたか



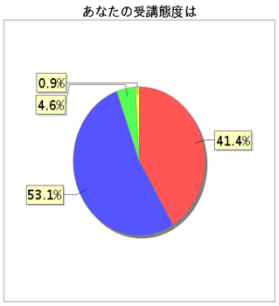
教員が参加を促していましたか



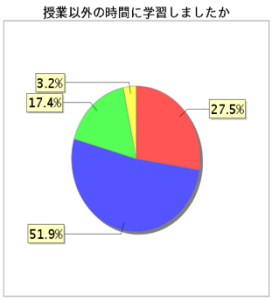
教員が静粛さを保とうとしていましたか



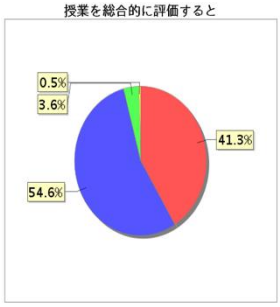
あなたの受講態度は



授業以外の時間に学習しましたか



授業を総合的に評価すると

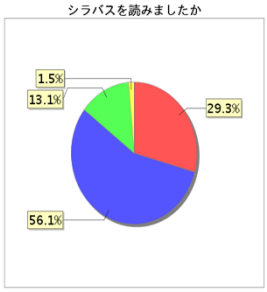


●とても良い　●だいたい良い
●あまり良くない●全く良くない

□　実技系授業の結果

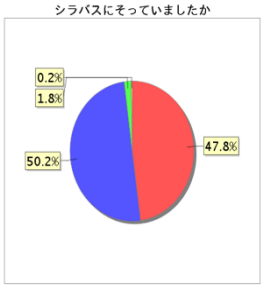
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

シラバスを読みましたか



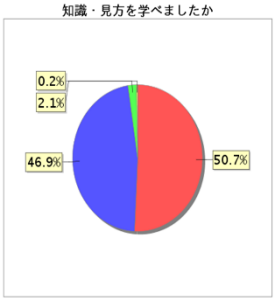
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

シラバスにそっていましたか



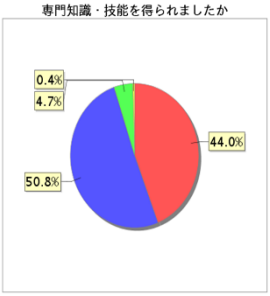
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

知識・見方を学べましたか



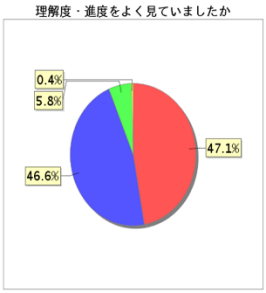
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

専門知識・技能を得られましたか



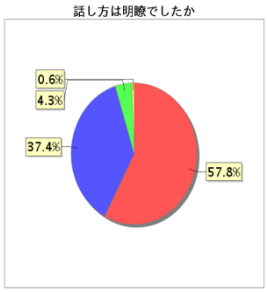
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

理解度・進度をよく見ていましたか



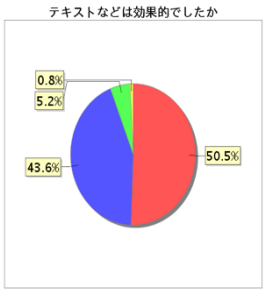
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

話し方は明瞭でしたか



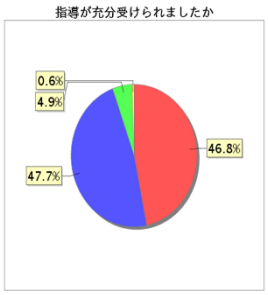
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

テキストなどは効果的でしたか



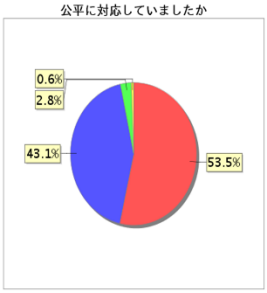
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

指導が充分受けられましたか



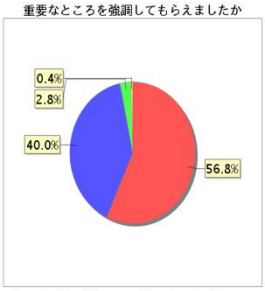
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

公平に対応していましたか



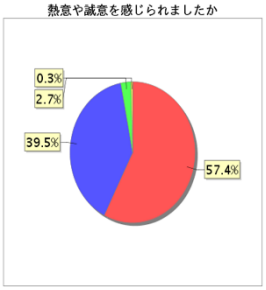
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

重要なところを強調してもらえましたか



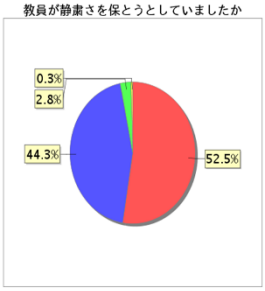
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

熱意や誠意を感じられましたか



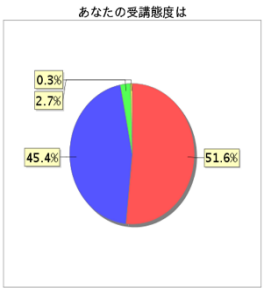
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

教員が静粛さを保とうとしていましたか



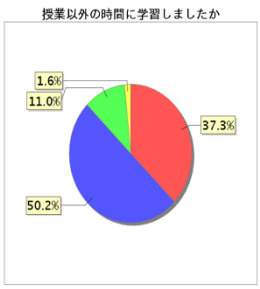
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

あなたの受講態度は



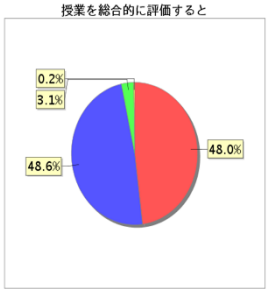
●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

授業以外の時間に学習しましたか



●しっかりできた　●だいたいできた
●あまりできなかった●全くできなかった

授業を総合的に評価すると



●とても良い　●だいたい良い
●あまり良くない●全く良くない

＜今回の結果からわかること＞

１．総合的評価

総合的評価について、“とても良い”または“だいたい良い”と回答した人は、講義系 95.9 %、実技系 96.6%となっており、大変多くの授業が学生によって肯定的な評価を得ていました。

２．学生の自己評価

「受講態度」については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人は講義系で 94.5%、実技系で 97.0%と、昨年度後期以上に多くの人が肯定的に評価しました。学修成果の指標である「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で 95.7%、実技系で 94.8～97.7%の人が肯定的に評価しており、ほとんどの人が昨年度以上に新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、93.2%の人は授業内容を概ね理解できており、一昨年（88.4%）、昨年(91.5%)同時期と比較すると理解度が上がってきています。

講義系の“授業以外の学修”については、他の項目に比べて達成度が低く、従来からの課題です。「授業時間外の予習や復習が出来なかった」学生の割合は、一昨年度後期 23.9%→昨年度後期 19.0%、今年度 20.6%と変化してきており、授業時間外の学修の定着に向けた教員からの働きかけが重要になってくると思われます。「シラバスを読んだ」学生についても以前には課題となっていましたが、ここ数年で改善しており、講義系で 84.6%、実技系で 85.4%と定着しています。授業を受ける前に授業の全体の流れを把握し、授業目標や到達指標を意識して取り組むことは、学修計画を立てる上で有効な方法です。毎回の授業内容や小テスト、レポート提出時期などを踏まえて学修計画を立て、取り組みましょう。

３．教員に対する評価

講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要なところの強調」という教授方法に関する項目に対する肯定的な評価は 92.5～96.1%で、昨年同時期の 88.1～92.3%と比較すると多くなっており、学生にとって満足度の高い授業であったようです。実技系の教員も、「話し方」「テキストの効果的使用」「重要なところの強調」「十分な指導」「公平な対応」が 94.1～96.8%と、昨年同時期の 90.8～92.9%と比べて高評価を得ていました。

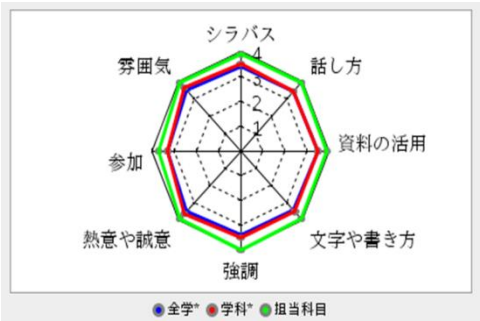
教員の「熱意や誠意」「参加の促し」「静粛さを保つ」等の学生への働きかけについても、講義系で 91.0～97.7%(昨年同時期 88.2～95.5%)、実技系で 96.8～96.9(昨年同時期 93.9~94.6%)と多くの学生から肯定的評価を得ていました。今回授業評価の対象となった科目はこれまでと同じく各学科の常勤・非常勤の教員の担当によるもので、これらの授業の受講学生の約 9 割以上から肯定的な評価が得られたということは、本学教員による教育の質の全体的な高さを示すものです。本年度後期もこれまでと同様かそれ以上に、多くの教員が熱意を持ち学生にとって満足度の高い授業を行ってきたということ、そして学生たちにもそのことが伝わっていることが以上の結果に示されています。

後期授業評価『教員から学生の皆さんへ』

令和２年度後期授業評価に対する教員から学生の皆さんへの回答をまとめました。

【　幼児教育学科　】

◆　社会的養護２



１．授業評価の結果に対するコメント

学生の皆さんには拙い授業をいつも展開しているにも関わらず、今回も高い評価を得ました。心より感謝申し上げます。シラバスに沿った授業が多少出来なかったことが心残りではありますが、コロナの時代でも工夫して授業が出来たことは何よりの朗報だと感じています。

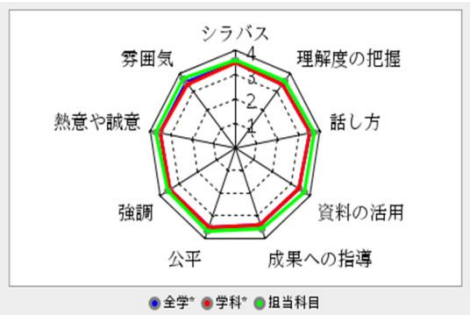
２．今後の授業における目標

学年によって、その時々のタイムリーな話題があるので、的確にそのことを把握し、授業に活かせるようにしていきたいと感じています。また、コロナが収束したら、演習系で活動的な授業展開も出来るとよいなと感じています。

３．受講学生に対する要望

毎回、小レポートを実施していますが、十分に双方向の意思疎通が出来ていて嬉しく思います。今後も、いま感じていること、目指したいこと、将来の夢、不安に思っていること、何でもいいですから書いて欲しいと思います。そのために先生たちが皆さんの傍にいるのですから。宜しくお願い致します。

◆　幼児と音楽表現Ⅱ



１．授業評価の結果に対するコメント

学生の皆さんの積極的な授業参加への思いが伝わり、私も授業を進めやすかったです。授業評価は皆さんと教員の双方での結果と思っています。概ね充実した授業内容で展開できたことがわかりよかったです。今後も皆さんの声に耳を傾け、「授業、楽しかった」と思ってもらえるように工夫していきたいです。

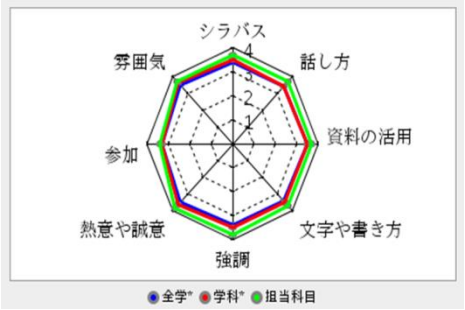
２．今後の授業における目標

理解度の把握、成果への指導のポイントが少々低めでしたので、個々への丁寧な声掛けや指導ができるように心がけたいです。また、自己への取組が行いやすい、授業内容や課題内容も工夫していきたいです。

３．受講学生に対する要望

全ての授業に共通して言えることですが、自ら学ぶ姿勢を大切にしてください。学生の皆さんと教員と一緒に授業を作り上げていきましょう。

◆　乳児保育Ⅱ



１．授業評価の結果に対するコメント

学科平均よりも高い評価の値となりとても満足しています。特に「強調」、「熱意や誠意」の項目を評価して頂けたことが大変うれしいです。今年度はコロナ禍で参加型の内容を控えました。仕方がなかったとはいえ、学生のみなさんにとって貴重な体験授業内容を避けなければならず、代わりの方法も提案できなかったことは申し訳なかったと思っています。そんな中で、未満児への心を寄せる接し方や自己主張する気持ちの理解など伝える努力をしてきたつもりです。コメントには、「学修しやすかった」「声が聞き取りやすかった」「月曜、週のはじめにある授業でよい始まりになった」などみなさんのあたたかい言葉が頂けて感謝しています。未満児保育の楽しさに関心を持って、いい笑顔で授業に取り組んでいただけたことを幸せに思います。

２．今後の授業における目標

0,1,2 歳児の発達は目をみはる早さです。その一つひとつは人間の一生を決めてしまうほどの重要なもので、育て関わる大人はそうしたことを知っていなくてはなりません。学生のみなさんは実際に我が子を出産・育児する経験のある人はほとんどなく、それでも子育てをする知恵や知識を専門職として学んでいく必要があります。

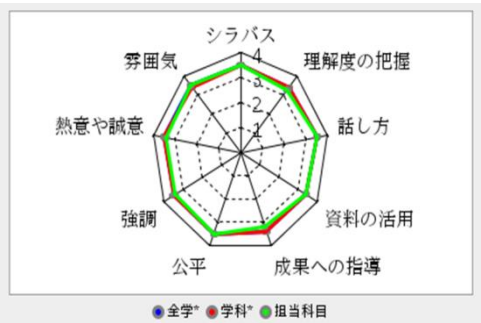
全体のスタイルは来年度も概ね同じように行う予定で、来年度は参加体験の内容もできる限り感染対策をして取り組めるよう工夫したいと考えています。0,1,2 歳の“未満児”と呼ばれる子どもに対して、“寄り添う”とはどのようなことなのか、養護性を大切にする生活の細かい内容や発達に沿った遊びの展開などあらゆる角度から理解し、実践できるようにしたいと思います。とくに“遊び歌”“わらべ歌”など１対１で遊ぶ保育技術をお伝えできるようにしたいと考えています。

３．受講学生に対する要望

「育てられるものから育てるもの」へ変化していく時であることを繰り返し伝えていくので、しっかりと考えて行動できるようにして頂ければと思います。

安全に対する配慮だけでなく、おおらかな心とやさしい気持ちを持つことは乳児を保育する者にとって何よりも大切だと考えています。自分の持っている力を信じて、自分自身によいイメージを持って授業に臨んでほしいと願っています。

◆　保育内容「環境」の指導法



１．授業評価の結果に対するコメント

人的環境としての保育者は、自然現象や社会の状況、季節や行事、子どもの言動など様々のことに気付いたり、感動したりできるように「アンテナを張る」大切さを伝えたいと講義だけでなく、実際に体験を通して保育に役立つ内容を心掛けました。その中で「楽しく学べた」「実習の参考になった」との声を聞くことができました。しかし、コロナ禍で、密になっての演習をすることが難しく、割合として講義の部分が多くな

りましたが、DVD 視聴や現場での実体験の話からも環境の大切さや意図、環境設定の仕方を学んでいる姿が見受けられたことにうれしく思いました。

２．今後の授業における目標

今後は、学生同士がどのように交流していくとより学修を充実させていけるか、自己の取り組みに対する評価、成果への指導の工夫を行い、自分自身の苦手な部分、足りない知識や技術がわかり、自己課題が明確になるようにしていきたいと思います。

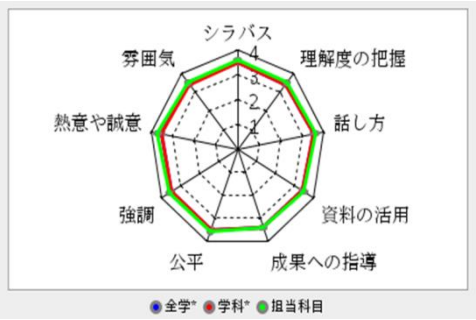
より具体的に理解ができるように、資料等や映像を活用しながらメリハリのある授業の改善に心がけていきたいと思います。

３．受講学生に対する要望

私たちが生活する社会は、日々、様々なことが起こり、変化しています。子どもたちも社会（環境）の中で生活し、社会（環境）に接して成長していきます。その社会（環境）に対して、学生の皆さん自分自身が情報感度を高める、取り逃がさないようにする、機会を大切にする、意識を向けるという「アンテナを張れる保育者」になってほしいと思っています。それは、子どもに接する時にも保育者という仕事に必要な力だからです。楽しんだり、面白がったり、発見したり、驚いたり、感動を分かち合ったりしながら、保育者目線と子ども目線で配慮点や指導点、環境構成など様々な場面や保育を考えられる授業で学生の皆さんと共に学びを深めていきたいです。

◆　幼児と健康

１．授業評価の結果に対するコメント



幼児と健康の授業では、乳幼児期の発達の理解と発達を促す運動の展開についての学修を実施した。学生はとても真剣に授業に取り組んでいる印象であった。

シラバスの理解の評価が「3.3」と低く、授業の目的や目標、また、授業内容について十分に理解できていない状態で授業を受けていた学生がいたことになる。授業外での取り組みの評価が「3.2」と一番低い評価であったため、授業内での学修を生かす授業前後の課題提示が不十分であった。また、成果への指導についての評価が「3.4」であり、授業内や提出物への成果を学生に十分に伝えられていなかった。熱意や誠意の評価が「3.7」と一番高い評価であり、保育者を目指すものにとって健康の大切さを伝えることができたと思われる。

今後は、授業や学生に真摯に向き合いながら、特に学修の目的、学修内容を深める課題の提示、成果に対する指導に対して創意工夫を図り、学生のよりよい学びとなる授業改善に努めたい。

２．今後の授業における目標

幼児教育学科１年次後期に実施する幼児と健康の授業を学修した後に、保育園実習が計画されている。授業で学修した知識や技術が保育園実習で活用できることを目標に授業を実施することとする。具体的には、以下のとおり授業改善を行う。

乳幼児の発達について、参考文献等を活用し視覚支援を取り入れ分かりやすく理解できるように教材を準備する。

幼児の健康を促す遊びや運動を指導者として実践できる技術を身につけられるよう、実技をとおして

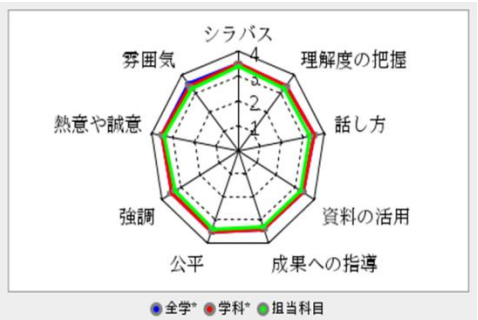
活動内容の理解を深め、保育等での現場で活用できる活動案が作成できる力を養う。
　学生同士で成果物を共有し、グループワーク等でより質の高いあそびや運動を創造できる活動を設定する。

３．受講学生に対する要望

　乳幼児の発達や健康について理解することは、保育者としての基本になる。そのうえで、乳幼児の発達や健康を促す活動を展開する技術を身につけることが保育者に求められる。日頃から文献や幼児番組等に多く触れ、幅広い保育技術を学んでほしい。

◆　幼児と造形表現

１．授業評価の結果に対するコメント



　良い評価と改善点についてどちらの評価もいただきました。感染症予防の観点からグループワークを控え、授業内容の変更のある中、対応してくださりありがとうございます。講義と制作と課題の時間についても短い時間に凝縮した形になりました。その中でも素材と素材と道具に触れ表現することの大切さについて学修ができたという意見ありうれしく思いました。

２．今後の授業における目標

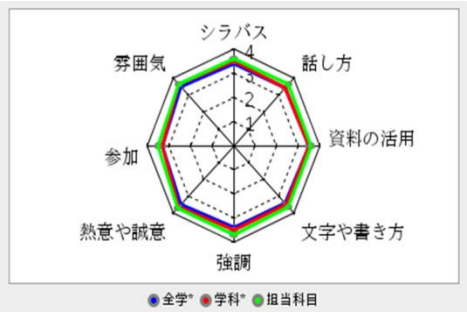
　講義・課題と制作の時間のバランスを調整し、制作の中で深く学べる授業を目指します。また、自己表現と保育表現の両方を学び、技術を高められるようフィードバックの改善を行っていきます。今年度実施の難しかったグループワークについてルールを定め現場につながる学びを目指していきます。

３．受講学生に対する要望

　苦手意識を持つ学生も多い実技の科目、作る前にまずは見る力から始めてください。じっくりと見る（鑑賞する）、ずっとみる（継続的に観察する）。その行いの中で発見をしていくことが大切です。

◆　子ども理解の理論及び方法

１．授業評価の結果に対するコメント



　授業を通して子ども理解を深めると共に、今後の実習への目標設定や保育観の育ちの一助になっていることが分かった。保育現場でのエピソードと結びつきやすい授業内容であるため、学生の保育者としての資質向上にもつながっていると考えられた。

２．今後の授業における目標

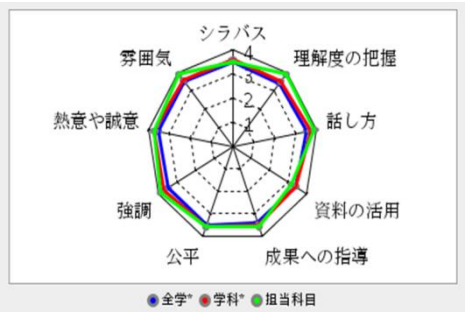
　教員の取り組みの評価に対し、学生の自己の取り組みに関する評価が低かったため、演習授業として学生にどのように課題を提示するか、また学生が主体的に学修できるテーマや方法を考えたい。今後は、学生がより主体的に授業参加できる内容にしたい。

３．受講学生に対する要望

学生のコメントから、子どもの内面理解、特に行動の意図や理由などを探ることに関心が高いことが分かった。今後も保育現場でのエピソードから、内面をどのように捉えるのかを学生と共に考えたい。また授業導入時の絵本の解説や読み聞かせも、保育のヒントになっているようなので継続したい。

【　音楽総合学科　】

◆　専攻楽器Ⅱ



１．授業評価の結果に対するコメント

自由記述がなかったため詳細は分かりかねるが、シラバスに関する項目が自己、対教員ともに低い評価であった。個人レッスンの授業であるため、どうしてもシラバス通りに進めることが困難であるが、個々のレベルを 3 段階くらいに分けて示すなど、きめ細やかなシラバスを作成。

資料の活用項目は、それぞれが決めた曲の楽譜のみを使用していたが、各曲の音源(CD 等)の活用も検討。

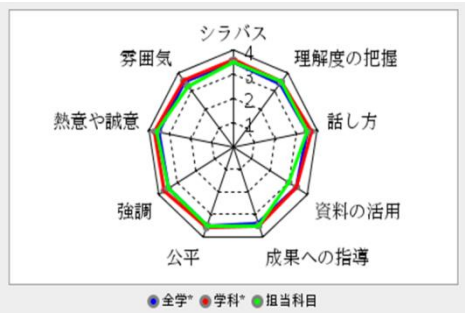
２．今後の授業における目標

コースによって学生のモチベーションなどに差が出るが、個々の到達目標を明確にし、満足度の高い授業を目指す。

３．受講学生に対する要望

最初は楽譜に忠実な演奏を心掛け、その後個性的な演奏を目指して下さい。

◆　リペア応用（木管Ⅰ）B



１．授業評価の結果に対するコメント

まず、総合評価で学科 3.6 に対して 3.4 と 0.2 ポイント低い要因として、毎回出る事であるが、シラバスの閲覧頻度が非常に低い事が上げられる。授業内では、カリキュラムについて、しっかりシラバスを確認するように。と説明はするのだが、見ると言う行為が定着していない様子である。また、授業外の取り組みについては、リペア作業は反復練習が重要だと毎回言ってはいるが、やる気（意欲）の薄い学生はバイト等へ行ってしまう。22 名中半数はその傾向にあると考えられる。

教員に対する評価での、資料の活用について低いと指摘を受け、確かに授業毎に対して資料を用意しているわけでは無いし、板書と口頭での説明で終わってしまったケースが多いと感じる。

２．今後の授業における目標

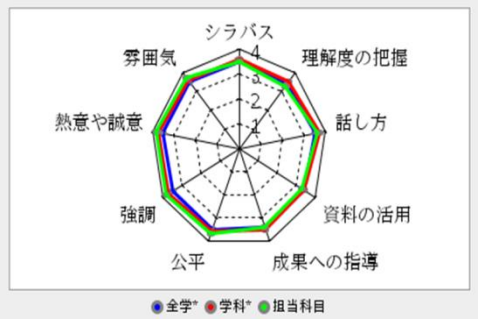
シラバスについては、何回となく学生へ説明を行う予定である。また、資料の活用については、技術（技能）の見える化（画像や文字等）に努めていきたい。

３．受講学生に対する要望

年によって学生の雰囲気が異なり接する事の難しさを感じるが、小学生レベルの生活態度にはどうしたら改善できるのか不安である。また、特別な配慮が必要な学生に対しては、接し方に非常に気を使います。

◆　ウィンドアンサンブル

１．授業評価の結果に対するコメント



「自己の取り組みに対する評価」で「学ぶ」と「授業外」の得点が高く、真摯な態度で取り組んでくれた学生に感謝したい。
さらに、「曲の新しい見方」や「時代ごとの特徴や演奏方法」の学びの成果のコメントがあった。教員の取り組みとして、「理解度の把握」が低かったところを反省したい。「抽象的な表現が多く…」というコメントをいただいたので、なるべく具体的に演奏につなげられる指導表現を工夫したい。

２．今後の授業における目標

今年度は、コロナ感染症の影響で、学外演奏と定期演奏会が実施できないという、自分たちの演奏を聴いてもらうという一番大切な営みの欠如した１年であった。特に毎年学生が感動的な刺激を受ける小学校の本番がなかったことは本当に残念であった。しかし、その反面、例年授業の半分以上を学外演奏の練習時間にとられていたが、今年は計画的な授業の時間配分を行うことが出来た。このバランスを今後も研究していきたい。

３．受講学生に対する要望

学外演奏や、定期演奏会と発表の場が多くあります。計画的に準備を進めていきましょう。
また、音楽には、答えは一つではなくたくさんあります。それぞれの先生から多様な音楽へのアプローチの仕方を学びましょう。

◆　音楽療法・基礎

１．授業評価の結果に対するコメント　　（受講生少数のため、レーダーチャートなし）

この授業の目標はアセスメントができるようになること、音楽療法セッションの記録が客観的にできるようになること、音楽療法における目標と実際の音楽活動を関連付けて計画できることである。

授業は音楽総合学科１年、幼児教育学科２年、社会人（BP）の３つの異なった背景を持つ学生たちが一緒に学ぶ少し珍しい形となっている。それぞれに良いところがあり、学生一人ずつ発表する場を設けることで自分と違う得意分野から学びあうことができるのではないかと期待している。合計 19 名の履修者であるが今回は音楽総合学科学生からのみの評価を得たので幼児教育学科学生の感想は不明（社会人からは感想を得ている）だが、音楽療法を学ぶ上で極めて重要な科目だと位置づけているので、自由記述で肯定的な評価があったことはこちらの意図が伝わっていると思いたい。

２．今後の授業における目標

学生に自由に活動計画、発表をさせるとどうしても自分たちがこれまで学んだことに偏った選曲、活動になってしまう。それらを尊重しつつも、対象者の背景、ニーズに沿った新しい活動に取り組んでいけるような演習課題、例の提示をしてゆきたい。

今回の授業における新しい取り組みの課題として、「自分が音楽療法を受けるならば何をしてもらいたいか」の計画を書いてもらった。これは、それまで学生が出してくる課題がたとえ成人を対象としていても子供っぽかったりシンプルすぎたりして、対象者が求めるニーズに寄り添えていないと感じたからである。一度、自分が対象者であったならばという立場の転換を挟むことで選曲の質が変わった学生が多くいた。一方でこの課題の後でも対象者に対する活動計画の意識が変わらない学生もいたため、根気強く働きかけることが大切であると改めて感じている。

３．受講学生に対する要望

知らない音楽、少し聴いて好みではないと思った音楽も対象者が求めるならばやらなければならない。授業で紹介する曲や活動は基本的なもの、知っておくとのちの実習に役立つものが多い。

自分の音楽の幅を広げる機会だと思い、授業で聞いた知らない音楽もレパートリーに加えることができるようにしてほしい。

◆　卒業演奏Ⅱ

１．授業評価の結果に対するコメント　（受講生少数のため、レーダーチャートなし）

弾きたかった曲、挑戦したかった曲、または紹介してもらって気に入った曲などから学生自身が選曲することで、全員が積極的に取り組むことができたようで嬉しく思います。この科目を受講して良かったところとして、弾きたかった曲を弾けるようになるために練習時間が増えた、楽曲についてのレポートを作成することで作曲者・楽曲などについて色々なことを知ることができた、指導により曲の雰囲気を出しやすくなった、自分では分からない曲の表現を知ることができたなどあり、各自の取り組みや指導によって楽曲への理解が深まり、演奏表現に繋げることができたと思います。毎回の授業で日頃の学ぶ姿勢がよく感じられ、一人ひとりの積極的な取り組みによってこの授業が成り立つことができたと思い、感謝しています。

２．今後の授業における目標

学生自身が選曲することはモチベーションにも繋がり大変良かったですが、この授業で取り組む曲は一般公開試験でもある卒業演奏発表会で演奏するため、完成度も求められます。難易度の高い楽曲に挑戦することはもちろん素晴らしいことですが、同時に、可能性も含めた演奏力との兼ね合いも難しいところです。学生の希望を受け入れながら、積極性・モチベーションにも繋がるような一人ひとりに適した選曲をアドバイスすることも大切にしたいと思います。

また、一人ひとりのレッスン時間が少し短いように感じるという意見がありましたが、限られた時間内で最大限の成長ができるよう、的確な指導をしていきたいと思います。

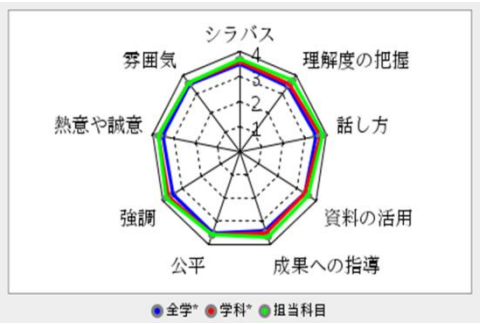
３．受講学生に対する要望

全員が２年間の集大成であるという自覚を持ってこの授業に取り組んでもらえたのではないかとと思います。

今までにやったことのないような曲を経験できたという感想があったように、一人ひとり大変で苦しい想いもしたかと思いますが、それらに立ち向かいながら取り組んだ経験はきっと自信に繋がり、これか

らの生活に必ず活かされると思います。卒業後はそれぞれの道に進みますが、そのような取り組みができた自分に自信を持って前進していってほしいと思います。

◆　リペア基礎(総合)Ⅱ



１．授業評価の結果に対するコメント

概ね全体的に高い評価であったことについては良かったと思う。課題であったシラバスについては随所において説明をしたことで定着してきているようで、今後もシラバスの重要性をわかりやすく説明し、確認する習慣付けを続けていきたい。今回はコロナ禍での各自の取り組みではあったが、授業外についてはもう少ししっかり取り組んでもらいたい、技術習得は授業を受けるだけでは身につかないものなので時間を有効に使い時間外でも復習を行ってもらいたい、そのために時間外でも学生が気軽に質問できるよう今後工夫をしていきたい。
教員の取り組みについては、昨年の評価を受け授業全体の流れを再確認した結果、全体的に高い評価になっていた。今後も一人一人の性格を早く見極め、それぞれが苦手としている部分を見極め、それぞれに合った対応をし、より満足していただける授業作りに邁進したいと考える。

２．今後の授業における目標

マスクの着用により学生の表情が伝わりにくい中、授業全体の雰囲気を大切にして学生全員が前向きに取り組めるような工夫をし授業に集中できるような環境作りに努力したい。積極的に声を掛け学生のコミュニケーション能力を高め早い段階から意思疎通が出来るような関係つくりを心がけたい。

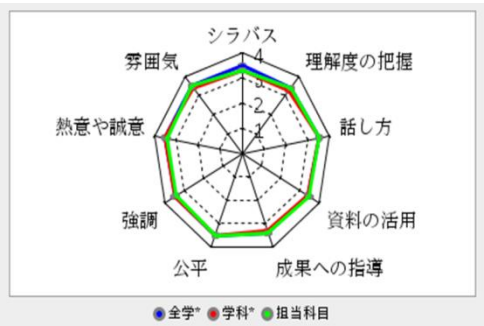
また、授業後もできる限り教室に残り学生に授業外の取り組みを自主的に行うよう個別にも指導を行いたい。

３．受講学生に対する要望

多くの事を覚え身につけていかなければなりません。疑問や質問などは後回しにせずその場で解決してください。覚えた技術を身に付ける為には何度も繰り返し同じ作業を行うしかありません。授業外の時間等を有効に使ってもらいたい。

【　デザイン美術学科　】

◆　情報マンガ



１．授業評価の結果に対するコメント

物語作りから、ペンで描くところまで、ストーリーマンガの基本を一通り体験できる授業であり、概ね評価は悪くなかったし、学生は授業の初めから終わりまで、全員がしっかりと取り組んでくれたが、外部依頼のキャラクター制作を授業の初めに組み込んだ（授業内容との齟齬はないものではあったが）ことで、全員が作品の完成に至ることができなかったこともあり、若干食い足りなさが残った学生もいたかもしれず、

良かった点、改善点ともに自由記述がなかったことの要因として考えられる。

２．今後の授業における目標

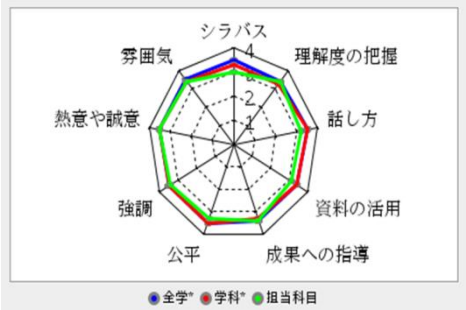
基本を学ぶ授業であることから進行が、やや淡々としたきらいがある。学生の興味、やる気を引き出す意味で、作業工程のポイントとなる部分を、その都度強調していくことを心掛けていく。

３．受講学生に対する要望

工程を一通り学んだとはいえ、それで自由にオリジナリティーのあるマンガが描ける容易なるものではない。2 年生の授業では、ジャンル、テーマ選びも含め、更に創造性の高いストーリーマンガを、自ら思考し表現することが求められるので、すべての工程を反復して練習することを心掛けてほしい

◆　コミックイラストレーション基礎

１．授業評価の結果に対するコメント



今回のアンケート数値が平素より少々低かった事について授業内容等を振り返り私なりに熟考した結果、考えられる要因はある程度分析はできた。

上記授業は１年生を対象にしており受講者数が多かった為やむを得ず二教室を使用し実施した事で
学生のスキルアップに支障が出る懸念はあったが課題等から判断するに個別差はあっても授業内容を理解している事が見て取れた。

２．今後の授業における目標

反省点としては前述したように本授業は受講者数が多かった為やむを得ず二教室を使用した事で普段とは違う授業の実施方法による弊害が出た事であろう。

実施した事でその事により通常行っている「全体説明」→「個別指導」の授業形態にどうしても時間がかかり各学生に費やする時間が短くならざるを得なかった。実際個別指導を行っている中でも間違った方向に制作を行っている学生が多い場合は全体説明を数回行わなければならない事が多々ありそれを二教室で同時に行うには少々タイムラグと説明内容の差異がでてしまった感はある。

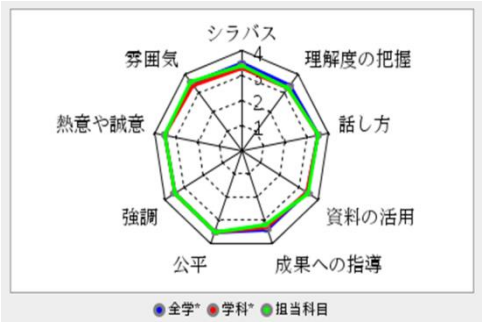
今後の課題として多教室同時進行の授業においての実施方法は今以上にブラッシュアップすべきと考える。

３．受講学生に対する要望

授業内外でも学生たちには再三伝えている事ではあるが授業の内容を理解し実践する為には予習復習の時間を確保し各自が反復練習をしなければ技術と思考は身につかない。

クリエイターに「休み」という概念は存在せず、クリエイターになりクリエイターとして居続ける為にはクリエイターとしての修練をずっと継続しなければならない事をしっかりと意識し自覚してほしい。コンテスト等に必要なスキルと仕事として必要なスキルは全く違う。それを理解する為には創作活動を継続しなければならない。厳しい道ではあるが頑張って欲しいと思う。

◆　映像演習



１．授業評価の結果に対するコメント

この授業では、短い動画制作を通じて、アニメーション制作工程や動き表現の基礎を学び、制作上のポイントについて学修をしています。受講する多くの学生にとっては、「PhotoShop を用いたアニメーション作画」「絵の表現を時間軸で構成する。」「同じキャラクターを少しずつ変化させ、何枚も描く。」「AfterEffects を用いた編集と加工」など、初めての体験が多いことや、作画枚数が多いため、必然的に仕事量も多く、負荷がかかりやすい授業といえます。しかし、自己の取り組みに対する評価では、大きく平均を下回る項目はなく安心しました。むしろ、“授業外での学修”については、やや高い値が現れたことからすると、課題量が多かったとも考えられますが、質を妥協しないで、少しでも理想に近づくような制作がなされたと感じました。実際、提出された作品の質は、高かったです。作品の内容からすると、みんなの自己評価は、もっと高くて見よいと感じました。

教員の取り組みに対する評価は、概ね問題ある値はありませんでした。“資料活用”“雰囲気”の値が、若干高かったため、今後は更に上げていきたいと感じました。ただ、“成果への指導”については、満足のいく値ではなかったため、出来ていること、できていないことを明確に伝える必要性を感じます。

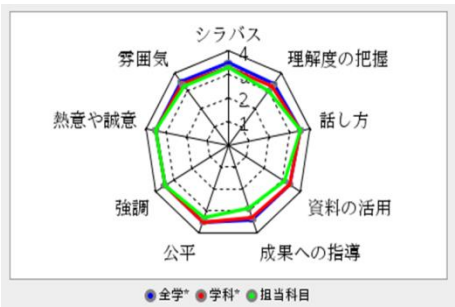
２．今後の授業における目標

学生の授業への取り組み態度は、とてもよかった印象です。提出された作品からは、『イメージを豊かに展開したい。』『基本に丁寧に向き合いたい。』『作品として、バランスよく表現したい。』『新しいことにチャレンジしたい。』『理想の世界観を表現したい。』『面白くしたい。』など、個々に様々ではありますが、それぞれの意図をとても強く感じた授業でした。この授業では、映像表現の基礎を理解し、体現し、今後の制作のために、豊かなビジョンが描けるような学生を育てていきたいと考えています。確実に技術を身につけることも大切なことですが、知識と技術を技能として出力できる人材育成ができる授業でありたいと思います。それは、学生の自主性と共に育てることで、理想とする教育が実現できると思うので、学生自身が、『自分は頑張った。』と思えるような授業づくりをしていきたいです。

３．受講学生に対する要望

成長のための自己肯定感をもって、課題に向かって一生懸命取り組めば、効果も上がるし、楽しさも見出せます。効果が出てないときは、問題をわかりやすく見つけるチャンスです。思い煩うよりは、対策を講じ、行動をしましょう。行動している方が、気分も晴れるし、問題解決の機会も増えるでしょう。

◆　ＣＧキャラクター



１．授業評価の結果に対するコメント

学生コメント、ＣＧは「誰でも簡単に作り始められるものだって知れて楽しい」授業の位置付けとして、大切な入口となる、制作へのきっかけが見受けられる。

授業をきっかけに、授業外学修（放課後の制作）を、積極的に行う学生が、制作力を高めている。
そして、取組む集中した時間に応じ、上達が比例している。また、取組み開始時期は、就活に向けた目標到達に間に合うかどうかに大きく影響する。時間外学修の重要性の理解から実行が、受講者全体へ浸透するためには、解説とシラバスの記載のみでは不十分となることを感じ、時間外学修の糸口作りが大切と感じる。
すでに、時間外学修、放課後の支援として、制作へのアドバイスを行っている。時間外制作を積極的に行う学生は大きく成長する。

２．今後の授業における目標

時間外学修の取組みが、制作力に直結することから、重視する。
時間外学修への受講生の積極性は、制作に慣れた段階で生まれやすい。作ることに慣れるまで、制作初期の段階は、課題進捗から到達点のペース配分を設け、達成度を確認することに効果が期待される。
時間外学修は、集中して行うことで、制作密度を高める。集中する環境は、放課後パソコン教室での制作が最も効果が高く、自宅制作の際は画像送信を用いることで、進捗を共有することが大切となる。
受講生全体に、時間外学修の機会が増えることで、各受講生が自ら一歩進んだ取組みに、制作アドバイスを行うことができる。

３．受講学生に対する要望

時間外学修（放課後の制作）が、「作る力の伸び」を大きく左右します。こんな風に進めます。
「作りたいキャラクターを、どうやって作るのか、考えながら質問し、作り方を調べ、資料も役立てる」
「原作を、ＣＧにおこす。平面的だったキャラクターが、ゲームやアニメで動くために、立体で作る」
慣れるまで、はじめは形がくずれます。しだいに、そのキャラクターの似せ方、立体感がつかめると、新たな制作力が自分のものになります。

◆　グラフィックデザイン基礎

１．授業評価の結果に対するコメント　（受講生少数のため、レーダーチャートなし）

神戸町公用車ラッピングデザインでは、外部依頼の事業だったため、外部（神戸町）の方との交流があったり、実際に取材に行ったりすることがあり、通常の教室内で行う課題より実践的な学修に取り組めたことが、学生には充実したものと捉えられた点がよかった。
私個人の研究テーマであるアナログ的な温かみをデザイン作品の絵柄に反映させる表現の具体的な方法については、指導することを少しためらったが、それを元に、彼女たちなりに自分のものにしていく様子が見られたので、これからも少しづつ伝えたい。
また、各学生への細やかな気配りについても、取り組んだことがきちんと届いていることが、コメントからわかった。

２．今後の授業における目標

改善の案として学生同士の作品を鑑賞する機会への要望があったので、その件と、シラバス作成時の「課題へのフィードバック」についても同様だが、授業内で取り組みや課題作品に個別にコメントをするだけでなく、課題終了時には講評会を行い、学生たちの作品を俯瞰しまたプレゼンや講評を通じて、コミュニケーション能力を育てたい。

３．受講学生に対する要望

授業の内容を確実に身につけるために、また将来設計のために、予習復習に時間をかけてほしいという願いはある。表現という点からは、課題を提出しさえすればよい、ということから発展して、なんらかの機会を自分でつくり、自分の表現とはどのようなものかを追求する姿勢を歓迎していきたい。しかし生活環境による制約もあるため、自分の都合のよい時にもっと気軽に教職員に頼る、相談する、それが大げさであればただ単純に話をするだけでもよいので試してほしいと思う。

【　歯科衛生学科　】

◆　小児歯科

１．授業評価の結果に対するコメント

学生から教員の取組みに対する評価において、「シラバス」「話し方」「資料の活用」「文字や書き方」「重要な点の強調」「熱意や誠意」「学生の授業参加」「授業の雰囲気」の全８項目において、3.3 から 3.5（4 点満点）の評価点であり、いずれも学科の平均以上の結果で学生からの良好な評価を得た。また、学生自身の自己の取組みに対する評価においても、「シラバス」「学ぶ」「学修理解」「授業態度」「授業外学修」の学生自身の評価で 3.2－3.3（4 点満点）であり、授業態度を除く４項目において学科の平均を上回る結果で学生からの良好な評価を得た。

２．今後の授業における目標

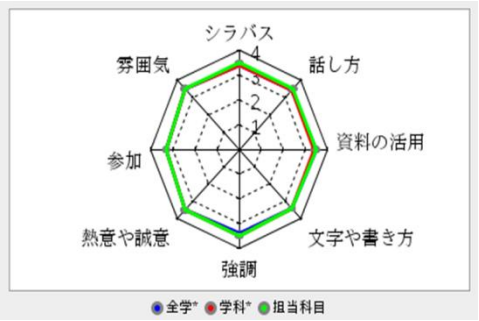
予習・復習を含めて授業時間外での課題設定を実施し、学生と教員との双方向の授業にするように今後一層努め、学生への質問やグループワークによる学習の導入を今後とも実施する。授業の中で「どの部分がわからないか」、「わかりにくかった点を再度説明してほしい」、さらに「自分でここまで調べた結果、なおわからない点がある」というように、質問する意図を学生自身が明確化し、質問しやすい授業の雰囲気にしていくように取組みたい。学生自らの学習意欲を引き出す「正の強化による自発的行動変容」に、よりいっそう力点をおいた教育を継続的に展開していく所存である。

３．受講学生に対する要望

将来の歯科衛生士として歯科医療を担う一員となる自覚を十分にもって、受講態度に気をつけるとともにシラバスの記載通りに予習・復習をしっかり行って、授業に積極的に出席する事を要望します。

各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館やＷＥＢ等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室まで問題点を整理して聞きにきてください。

◆　栄養生化学（生化学）



１．授業評価の結果に対するコメント

総合評価 3.4 を頂き、他教員と比較して自分自身が平均並みであることを認識しております。より一層の努力・創意・工夫を凝らし、学生ファーストの授業に努めていく所存です。

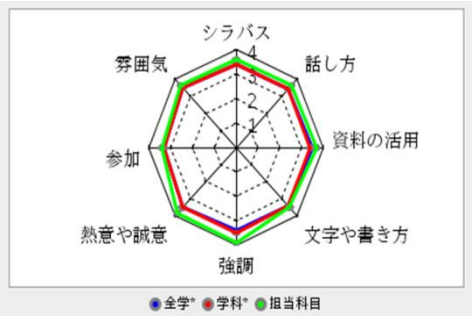
２．今後の授業における目標

歯科衛生学科は卒業年次に「歯科衛生士国家試験」という難関を通らなければなりません。国誌対策ばかりの授業だと味気なくなり、一方、学生が興味を持つことを話ている暇もなく、これらの折り合いをつけていくことが今後の目標です。

３．受講学生に対する要望

大いに青春を謳歌し、知能・社会性の獲得・人生を生き抜く気力、体力を身に付ける場の１つとして大学の講義に臨んでいただきたい。

◆　歯科放射線学



１．授業評価の結果に対するコメント

専門性の高い内容であるにもかかわらず授業内容や配布資料がわかりやすいという評価がいただけた。授業に際し，

１）授業のたびに励ます。
２）何が重要事項なのかをわかるように提示する。
３）情報を整理して提供する。特に，要約を重視し，何を知ればわかったことになるのかを意識させるようにする。
４）国家試験対策を授業に取り入れる。
５）毎回の授業で重要事項の復習をし，繰り返しの習慣化を目指す。

ということを心がけた。

自由記載の欄に上記のことに対し，非常に好意的に受け止めている学生がいることがわかったので，今後も続けたいと考えている。

一方，スライドや資料を授業で見せる際，画面の切り替えがうまくいかず，見えにくかったことがあったようなので，今後はフォントの大きさや，見せるスピードなどに気を付けながら授業を勧めたいと考えている。

２．今後の授業における目標

教員に対する評価については，どの項目も高い評価をいただいたので，今後もさらにブラッシュアップしてよりよい授業を心がけたい。一方，自己の取組のうち，シラバスと授業外の取組の評価が他項目と比べてやや低かったので，改善するように取り組みたい。

３．受講学生に対する要望

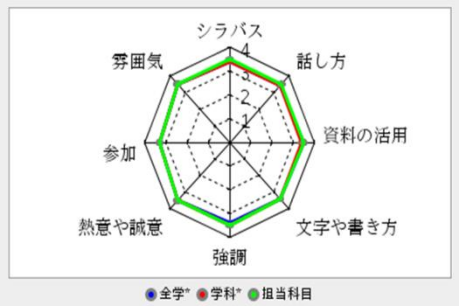
１）私語や居眠りをせず，真面目に授業に取り組む。
２）習った内容をできるだけ早い時期（できれば１日後）に目を通す。
３）キーワードや重要事項を覚える。それによって，その科目を理解し攻略していく上での柱を作る。

配布資料では太字や赤でなどで協調しているので，よく目を通すこと。

4）勉強する上での最強の方法は「要約」です。「要約」とは，「わかりやすく，かつ少ない文字数でまとめる」ということ。要約をすれば，いったい何を理解すれば，その話がわかったことになるのか（これを「本質」と言う）がわかる。　学ぶべきことについて，「一言でいうとどういうことなのか」を意識して勉強する。

5）覚えるべき内容について，「なぜこうなるのか」を理解すると，記憶が効率的になる。しかも覚えた知識が長持ちする。知識と知識を「なぜ」で結びつけて覚えてしまおう。

◆　栄養生化学



１．授業評価の結果に対するコメント

学生の自己の取組に対する評価では、「シラバス」「学ぶ」「理解」「態度」「授業外」の 5 項目について学科平均とほぼ同じか 0.1 ポイント高い評価であった。学生の主体的に授業に取組んだ証であると考えます。

教員の取組に対する 8 項目の評価では、学科平均と同じか 0.1 ポイント高い評価が「シラバス」「話し方」「資料の活用」であったので、可もなく不可もなしであったしたがって、学科と同点であった項目は、さらにポイントを上げられるように意識していきたい。

学生からの肯定的なコメントとして、「小テストが多かったが、その分最終試験が簡単に思えた」「栄養について正しい知識が身に付いた」と、この授業が学生にとって役に立ったコメントを頂いたので、教員としてはそのコメントに励まされ、やりがいを感じました。

２．今後の授業における目標

この科目は講義系であり、学生が受け身の状態になりがちであるので、これまで栄養計算も取り入れて行ってきました。受講者にとって単調な話し方は、印象が残らないと思われるので、特に「強調」は、しっかり行いたいです。

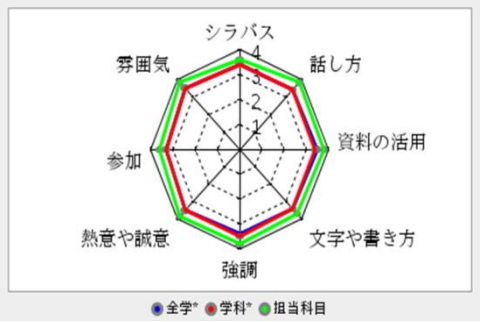
授業で使用する資料は、分かりやすい授業を展開するには大切なツールとなるため、よく内容を吟味して授業準備を進めていきます。

３．受講学生に対する要望

「パワーポイントのペースが速すぎて写すのが追いつかない」というコメントが 1 名ありました。書けない人は、テキストのどこに書いてあるか、授業時に伝えています。シラバスに授業時間外の課題が記載されています。限られた授業時間内で完結するのではなく、テキストを読み直し何が重要なのか自分で考えることが大学生として必要です。

授業前後（予習・復習）の学習を心がけましょう。

◆　う蝕予防処置法Ⅰ



１．授業評価の結果に対するコメント

すべての項目において、全学評価、学科評価より上回っていた点については良かった点である。特に【教員の取組に対する評価】では、どの項目でも 3.6～3.8 点と高く評価してもらったことについて、難しい専門的知識を理解する必要がある科目なので、2 年生の「う蝕予防処置法Ⅱ」につなげるためにも、わかりやすく理解できる表現を考慮して授業展開をした成果であると思う。ただ、【自己の取組に対する評価】では、「シラバス」「理解」「授業外」の項目で 3.2～3.3 と低く評価した学生が多かった。成績評価でも結果には成果が表れているので、自信をもって自己評価できるとよい。

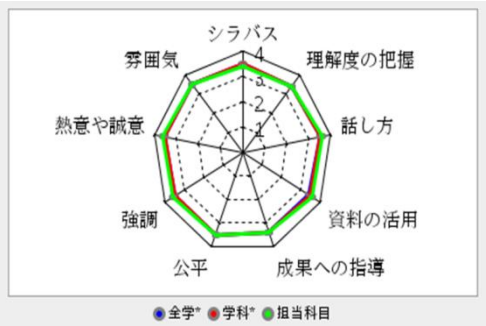
２．今後の授業における目標

残念ながら、今年度で退職するため「今後の授業における目標」は立てられないが、授業においても学生指導においても、今何をすべきか、そのために何が必要かを常に考え、また、学生にも考えてもらうように努めてきた。今後、このような機会が得られた時には、今までの経験を生かしていきたい。

３．受講学生に対する要望

何事においても「難しいから」とか「面倒だから」と放り出さずに、何とかやってみようとする先に、結果がついてくる。特にこの科目はその繰り返しであったと思います。理数系が苦手な人も、計算が難しいと思った人も、「あっそういうことか！」といった何かのきっかけがあれば根気強く取り組んでいけると思います。そのきっかけを早く見つけて取り組んでください。

◆　診療補助基礎Ⅱ



１．授業評価の結果に対するコメント

今回の「自己の取組に対する評価」が低かった。シラバスを使って説明や毎回実習の到達目標を持って実習は行っていたが、なかなか実習が旨く行かない学生が多く見受けられた。学生自身がなぜうまくいかないか自分自身を振り返り、分析できる実習ができていない。これからは、学生が自ら学修意欲を持って自分自身で改善点を考えていけるような実習にするよう努める必要がある。

２．今後の授業における目標

実習時は、こちらから指示をすることが多くなるため、指示ないと動けない学生が多くいる。学生が自ら考えて動けるようになるために、実習後の振り返りを毎回授業の中に取り入れ、次の実習時には、改善点を自分でみつけながら主体的に行動できるような実習体制にしていきたい。

３．受講学生に対する要望

できないことを先延ばしにすると、同じとこを繰り返すだけで、技術、知識は向上しません。
授業時間内でできなかったことや分からないことは、授業時間外でも積極に聞きに来てください。次の実習では、できなかったことができるようにして実習に望むようにしましょう

◆　口腔健康管理演習

１．授業評価の結果に対するコメント

自己の取り組みに対する評価で、「シラバス」の項目が学科平均より低かった。理由として考えられることは、読んでもらう働きかけと内容を理解してもらうことが不足していたと考える。

「授業外」の項目は、学生自身は取り組む時間が少なかったと感じたかもしれないが、課題や実技試験の練習など熱心に取り組んでいたと思う。「知識・技能」の項目について、学科平均より0.1 ポイント高くなっている。専門的な知識と技能が身についたと思えたことで、今後の技術向上につながることを期待したい。

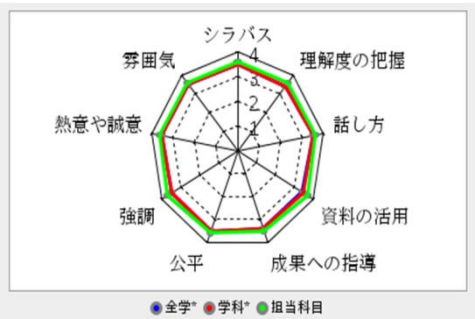
２．今後の授業における目標

教員の取り組みの項目で、「話し方」「強調」の項目が学科平均より 0.1 ポイント低かった。単調な話し方に加え、強調しているつもりでも多く説明することによって、ポイントがわかりにくくなっていることが考えられる。今後工夫していきたい。

３．受講学生に対する要望

授業内では、高齢者や障がい者に対しての口腔健康管理をメインに行ってきました。今後臨床で必要になる初歩の口腔健康管理技術と歯科衛生診断シート作成を実施しました。この授業の内容を踏まえ歯科衛生士として自分自身で考え、患者さんの口腔の健康を管理しながら、少しでもその人らしい生活が続けられるよう支援してください。

◆　歯周病予防技術法Ⅱ



１．授業評価の結果に対するコメント

「総合評価」において平均より 0.1 高かった。「自己の取り組みに対する評価」においては、0.1～0.3 高かった。この科目は、技術を修得する科目であるため授業外で自習練習する学生が多い。学生が意欲的に行えていた結果「自己の取り組みに対する評価」が高かったと考える。

また、「教員の取り組みに対する評価」においても 0.1～0.3 高かった。特に、「資料の活用」「強調」は、毎回学生に分かるようにパワーポイントやビデオカメラなどで示し工夫した。大事なこと（覚えてほしいこと）を何回も繰り返し伝えた結果だと考える。

２．今後の授業における目標

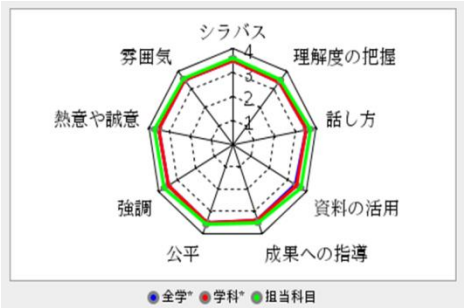
技術を修得するにあたり、学生全員が分かるように引き続き工夫し伝えていきたい。

口腔内で説明が必要なので見やすいようビデオカメラの活用の仕方、学生が自主練習するにあたり正しい操作ができるよう動画の提供等考えていきたいと思う。

３．受講学生に対する要望

技術を修得するには授業内だけではなかなか難しいので、授業外で練習を重ねてほしい。
オフィスアワーを活用し、分からないことがあれば質問してほしい。

◆　保健指導法Ⅰ



１．授業評価の結果に対するコメント

「自己の取組に対する評価」の「知識や技能」についての評価が全学的に見ても低く、昨年の学生と比較しても低くなっていました。学生の皆さんが自主的に授業内外で知識や技術の修得に取り組めるように工夫する必要があると考えます。「授業外」について、この科目では、特に授業外で行う課題が多く学生の皆さんは提出期限を守る、課題の内容を工夫するなどの努力をされたと感じています。その点から考えるともう少し自己評価が高くてもよかったのではないでしょうか。「教員の取組に対する評価」については、シラバスは、授業の初回のみでなく中盤や終盤などにも評価についてを含めて何度か説明しました。また、強調や話し方の評価では、「大切なことは繰り返し何度も伝える」、「ゆっくりわかりやすく発音する」そのようなことが雰囲気、強調、話し方などの評価につながったのではないかと考えます。

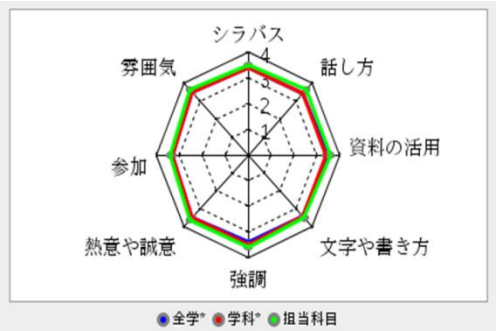
２．今後の授業における目標

授業外での学修については、オフィスアワーの時間を活用して個別に対応することで、学生の進行に沿った適切なサポートを行いたいと考えています。「知識や技能」の取組については、動画などを活用してより理解しやすい授業展開を工夫します。学生の「理解度の把握」や「成果への指導」については、単元ごとの到達状況を把握して、その結果をフィードバックしながらより理解を深めていけるような授業の展開をすることとします。

３．受講学生に対する要望

・理解できないことがあれば、授業内外問わず質問をしてください
・授業外での学修は期日を守り一つずつ確実に進めていきましょう

◆　発達口腔保健学



１．授業評価の結果に対するコメント

学生の取組に対する自己評価が高いのは、与えた課題を提出したことや小テスト前の学修に対してなのか、やや評価が高いように感じた。

特に小テストでの得点が芳しくない学生も多くみられた。事前に小テストの実施は告知しているため、もう少し復習してから臨めるとよいと思った。

２．今後の授業における目標

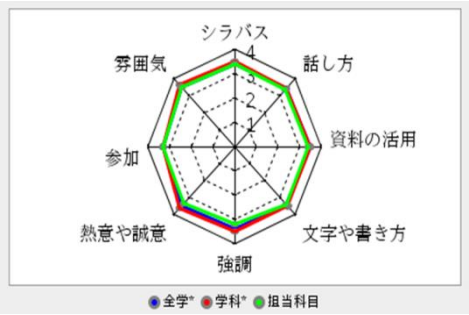
今年度をもって退職するため、特にない。

３．受講学生に対する要望

集中力を持って講義に臨める授業態度を維持できるようにしてもらいたい。シラバスを事前に確認して、何を進めていくのか把握できると流れを理解して取り組めるのではないかと思う。

【　看護学科　】

◆　　子どもの健康と安全



１．授業評価の結果に対するコメント

担当した授業全体についていえることですが、看護師の視点から述べているので、特に多職種連携や、子どもを地域で育てていくための政策に関する内容などは、分かりにくい点があったと思われます。また、学生の自己の取り組みに対する評価の授業外での評価点が2.7と低いのは、授業ごとに課題提出をしていなかったことが考えられます。次年度は予習、復習も含めて課題提出することで、授業以外での学修が出来るように改善します。

２．今後の授業における目標

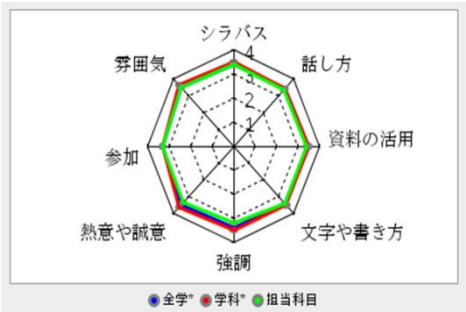
次年度からは、保育所や幼稚園などの現場において看護の視点から、子どもの健康と安全をどう守るべきかを重点に置いた内容にしていく予定です。

私は障がい児看護を実践してきましたので、その強みを生かした内容を分かりやすく伝えていく事で、教員の評価全体が高くなるかと思います。

３．受講学生に対する要望

授業で使用する教科書は最低１回以上読み、教科書にある問題は自分で説いて参加するように心がけてほしいです。

◆　　子どもの健康と安全



１．授業評価の結果に対するコメント

教師の取り組みに対する評価得点の割合が80%以上であったことは、授業資料では空欄を設け、学生に確認をしながら双方向の授業を行った結果であったと判断する。これについては、学生からも「知識を身につけることができた」「意見交流ができ、学びが深まった」などの記述回答が得られている。一方、学生の自己の取り組みに対する評価が教師の取り組みに対する評価よりわずかに低い。学生が意欲をもって取り組めるよう改善していくことが課題である。

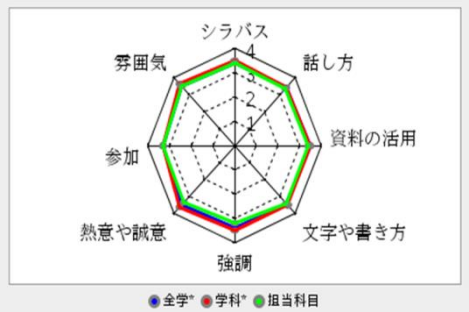
２．今後の授業における目標

子どもの健康について理解が深められるよう、わかりやすい資料など工夫をしていく。

３．受講学生に対する要望

学生は、子どもの成長発達や健康に関心をもち主体的に学修し、授業に参加してほしい。

◆　子どもの健康と安全



１．授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する授業外の取組に対する評価が 2.7 と全学・学科に比べ 0.3 ポイント低かった。確かに毎回の講義で次回までの課題を提示したが、課題をやっていない学生も数名いた。そのため講義時に課題に取り組む時間を設けたのであるが、課題をやってこなかった理由について確認し、次回の取組につなげる必要があった。

子どもの健康と安全に関して、将来保育士となる学生に知っておいてもらいたいことを熱意をもって強調したつもりであるが、全学・学科に比べ 0.2～0.3 ポイント低く、学生に十分伝わらなかったことが残念である。他の教員の授業を視聴し参考にしたい。

今回、コロナウィルス感染拡大の影響で演習を取り入れることはできなかったが、動画等を用いてイメージできるよう工夫した。自由記述で「わかりやすい」「丁寧」という意見があり、授業の組み立てとしては良かったように思う。

学生参加型の授業を心掛け、毎回の授業で学生の意見を聞くようにした。自由記述ではそのことについてよかったという意見があり、学生も参加型の授業を望んでいることがわかった。年々学生の意思表示が乏しくなっていくように感じているが、学生が自己の考えを発信できる機会を設けていく必要性を感じた。

２．今後の授業における目標

短大生に向けた授業は今年度で終了となるが、子どもの未来を守る大人の役割を今後も熱意をもって伝えていきたい。

３．受講学生に対する要望

前述の通り、課題をやってこない学生が数名いた。幼児教育科の学生は、子どもにとって最初の先生となる人たちである。やるべきことがきちんできないようでは、将来そんな先生に関わる子どもたちが気の毒である。そう思いながらも厳しく注意することができなかった。他学科の授業であるため、学生の特性も不明瞭であった。学科の先生に方針を伺うなど相談できるとよかった。また学科の先生からも情報提供があるとよかった。

指名すれば意見は言うが、意思表示が乏しい。他の授業ではどうなのか気になった。この点についても学科の先生方と情報共有すべきであった。

【　総合教育センター　】

◆　心理学

１．授業評価の結果に対するコメント

どの項目も、学科・全体平均値を上回る結果だったので、沢山の授業を受けている皆さんの目から見ても、一定の質を保った授業が行えていたということがわかりました。コメントでは、「わかりやすかっ

た」「毎回面白かった」「(授業で習ったことを）日常で使えるようになった」などがあり、教養科目として、また、誰もが身近に感じる「こころ」についての授業として、気構えずに受けられて身になるものだったことが窺えました。毎回の授業で質問や要望などのコメントをこまめに受け、その都度応えているのですが、そこには寄せられていなかった物理的環境（受講人数が多いのに講義室が狭い、スクリーンが遠いなど）についての改善点が指摘されており、自身で努力できる範囲の限界を感じました。

２．今後の授業における目標

一番大切にしたいことは、やはり「楽しい授業」です。楽しい＝楽、簡単、ということではなく、興味深い、聞きたくなる授業を目指して、内容、教材、方法などを工夫していきたいと思います。授業で習ったことをテストのために暗記する必要はありませんが、人生のどこかで何かの折にふと「そういえばこんなようなこと、短大の授業で聞いたことがあるなあ」と思い出してもらえるような、本当の意味での教養に結びつく授業にしたいです。

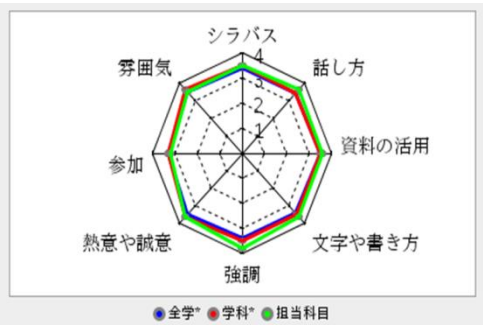
３．受講学生に対する要望

心理学の授業で扱う内容の多くは皆さんが「当事者」となるものです。学問としての学びを自己理解や他者理解につなげて、日常生活に活かしてほしいと思います。受講生からは「面白かったので授業のあと、自分でも色々調べてみました」「心理学の授業を受けてから、物事の捉え方が少し変わりました」というコメントが時々寄せられており、ぜひこうなってほしいです。

◆　教育原理

１．授業評価の結果に対するコメント

全体に学生が発表する場面やグループ で取り組む活動が少なく、話を聞いたり、考えを書いたりする活動が中心となってしまい、興味・関心を高められなかったことを反省しています。



２.今後の授業における目標

学生同士の交流が制限される状況を、情報機器やアプリケーションソフトを適切に活用することで克服することが、特に講義科目では重要になると思います。

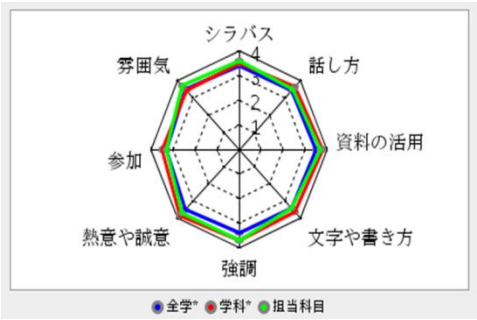
３.受講学生に対する要望

この際ですから、「禍転じて福となす」つもりで、リモートを含むさまざまな学びの方法自体を体験して学びましょう。

【　非常勤講師　】

◆　　楽器業界ビジネス（音楽総合学科）

１．授業評価の結果に対するコメント



学生の自己の取り組み評価

　シラバスを確認するよう指導するが不十分である。第一回目の授業でシラバスについての意識化を徹底したい。「学びと理解」は全学評価より高いことはよかったが、より理解力を高める指導の工夫が必要に思う。「態度」は授業が講義形式であり、教えたい内容が多く、時間配分の関係上どうしても一方向的にならざるを得ない。その結果、集中力や興味を無くし、眠気を感じたり、グループ活動での消極的姿勢等を自己評価したのではと思われる。来年度はこの点を工夫し、学生の満足度を高める授業を行いたい。

教員の取り組みに関する評価

・シラバス　私の楽器業界での経験から必要と思われる業務内容で構成しており実務的な内容であると考える。学生がこの点に気付いているように思われる。来年度は更に読み手の側に立っての作成を行った。（３．６）

・話し方は今年度マスク使用でやり辛さがあり、何より大切な話術の変化が不十分であったことを反省している。学生は聞きにくく集中力がそがれたと思われる。マスクや声量の工夫等行いたい。（３．５）

・資料の活用　自作資料を活用している。その中に学ばせたいことを書き、補足説明で現場の実際例を伝えている。この形式を継続したい。（３．７）

・文字や書き方　時間配分を気にし、ゆっくりと丁寧に書くことを犠牲にしている。大いに反省すべきことで、板書のタイミングと効果を大きな課題としたい。（３．４）

・強調　楽器業界で働くうえで重要なポイントを強調している。より理解力を深めるうえで重要だと思う。用意周到な授業計画でさらに効果を上げたい。（３．７）

・熱意や誠意　教える者の最も大切な姿勢だと思う。講義形式は受ける側に濃淡が出ないよう学生全員に評価されるよう努める。（３．７）

・参加　時間配分の拙さでこの項目が最も低い。大きな改善点。積極的な発言を促したい。（３．３）

・雰囲気　全学、学科の平均より高く評価されているが、私が管楽器演奏者で吹奏楽、マーチングの現役指導者である点の親近感もあるのではないかと思う。（３．７）

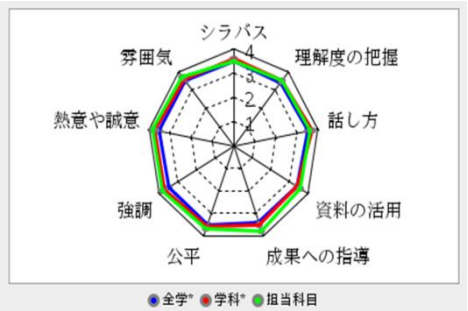
２．今後の授業における目標

　いつも学生のために工夫をし、寄り添う教員でありたい。学生の立場に立って授業をする。「何を教えたのかだけでなく、どのように育てたのか」私たちに求められているこの大テーマを今後の授業の目標、指針としたい。シラバスに完全準拠した授業を進め目標を達成したい。

３．受講学生に対する要望

　学生が「なぜ大垣女子短期大学の学生になったのか。何を求め、何を学び、どの様な知識、能力を身につけ、どの様な人になりたいのか」を常に自問自答することを願う。そのヒントはシラバスにある。熟読し、そこから、教える者の思いや願いをくみ取って欲しい。

◆　ヴォーカルⅡ（音楽総合学科）



１．授業評価の結果に対するコメント

意欲的に授業を受講してもらえた事に感謝しています。学生の熱意に応えるべく、教師として常に学ぶ姿勢を分かち合う努力をしていこうと思います。

２．今後の授業における目標

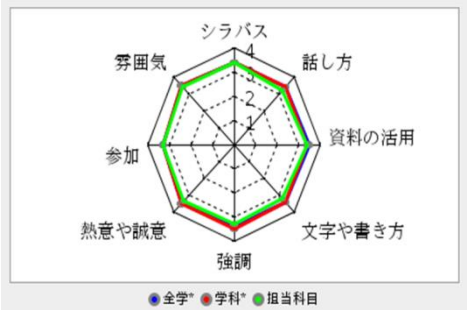
新しいことを学ぶ、発見することと、毎日の絶ゆまぬ訓練と練習の重要性を常に上げて指導したいと思います。

３．受講学生に対する要望

今年度、ヴォーカルを受講した学生は、非常に熱意を持って取り組んでくれました。

自身が向上心を持って取り組むことの重要性を感じますので、是非とも課題を常に持って学んで欲しいと思います。

◆　衛生行政社会福祉学（歯科衛生学科）



１．授業評価の結果に対するコメント

衛生行政社会福祉学を担当しました。全体的に平均値をやや下回る評価でした。

担当授業の範囲が広く学生からすると戸惑いを持ったり、知識・理念・制度・思想・分析等思考することの疲労や回避感は事実あると思います。そんな中でも質問や学んだことのメモを出席カードに記載する学生もおり、当該授業への馴染みを少しでも持ってもらえるよう工夫する必要があると自己評価しています。

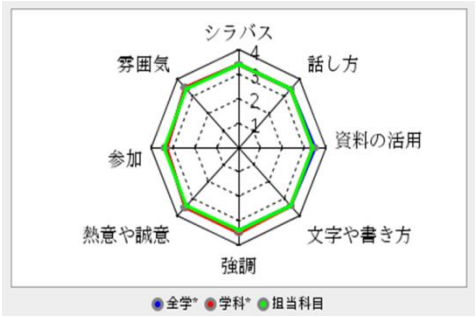
２．今後の授業における目標

今後ますます地域福祉・医療・介護等の専門分野は分野として進展しながら、共通するところ、例えば基本的権利やこれに基づく諸制度、理念、思想等は地域包括ケアを中心に重要視されると思います。歯科衛生士がソーシャルケアワーカーの役割を担うという意味で幅広い知識の習得や専門医療人としての人間力を当該授業を通じ育成できればと思っています。基本的な資質として「考える」「疑問を持つ」「他者特に社会的弱者を慮る」ことを新聞記事等身近な時事問題（統計等含む）も取り入れつつ個々に凹凸はあってもその力をすこしでも身に着ける授業目標としたい。

３．受講学生に対する要望

15 回の対面では正直一人ひとりの顔と名前は覚えられませんが、出席カードを使って少しでも多くの学生の考え（疑問含め）を把握し、それにフィードバックすることを行いたいと考えています。できるだけ多くの学生が日常生活や将来の職業人との関連性で授業を認識し再考する場面を作りたいので学生のみなさんにあっても身近な生活学に置き換えてもらいたいと思います。

◆　臨床医学（歯科衛生学科）



１．授業評価の結果に対するコメント

＜「教員の取り組みに対する評価」について＞

授業評価の結果には記載がありませんでしたが、リモート講義中に通信が切断するトラブルがあり、ご迷惑をおかけしました。この点が「熱意や誠意」・「強調」・「雰囲気」の点数に現れていると推察します。

＜「自己の取り組みに対する評価」について＞

実演に取り組んで頂けた方にとっては、その経験が理解に結びついたと思われます。「授業外」の項目については、必ずしも歯科に直結する講義内容ではないので自己学習の優先度合が低かったと推察します。

本学卒業後に実務を行い患者様に接する中で、本講義で学んだ内容が役に立つのであれば幸いです。

２．今後の授業における目標

＜リモート講義について＞

今後もリモート講義を行う機会がありましたら、今年度よりもトラブルシューティングを入念に行ってから講義に臨みたいと思います。また、一方的な講義を行うのみでなく、チャット機能などを用いて教室とのコミュニケーションを図ります。

＜講義内容について＞

・今年度を回顧すると、知識の伝達に偏った内容であったかもしれません。授業時間内で、生徒さんに考えて頂く時間や、こちらから問いかける質問を多くするなど、主体的に参加して頂く工夫を行います。

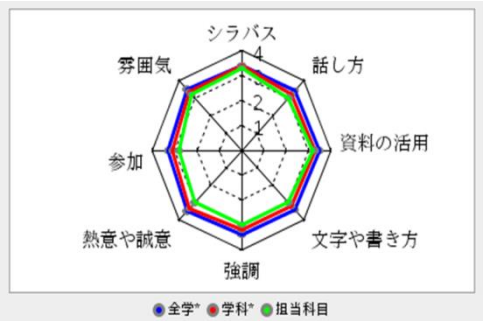
・歯科と関連するリハビリテーション分野の伝達を増やすことで、興味関心を惹きつけたいと思います。

・毎時間の小テスト実施と、次時間でのフィードバックを行うことで、知識の定着を図ります。

３．受講学生に対する要望

・ありません。

◆　くらしの科学（物理・化学）（教養科目）



１．授業評価の結果に対するコメント

普通の日常のくらしのなかにさまざまな科学現象がありそれらの原理等を知ることにより生活力が身に着くと思いこの講義を行っています。ともかく科学（物理や化学）はむつかしいものという既成概念を持つ学生さんに普段の生活の中の出来事を改めて見つめてみるとその通りだなと感じられる内容のみで講義内容を組み立てています。科学の面白さを理解し興味を持つことで自発的にもっともっと日常現象を見つめより安全で快適な生活ができるようになるきっかけとなるはずです。

「文字が見にくい」「プリントの量が多い」とのご意見は、この数年間この講義で行った内容を出版社に企画を持ち寄り採用が決定となり２年間かけてほぼ完成しており４月には発刊される予定。これにより今後文字の見にくさやばらばらでかさばるプリントの束がなくなり１冊のきれいなカラー刷りの教科

書を利用してもらうことで、解決されると思います。その教科書は、文字のサイズも考慮したスライドも作成し提供します。「不要に動き回るのが嫌」とのことですが、マスクをし巡回の際はほとんど話しをせず飛沫の方向を意識しながらの巡回です。居眠りしたり、この講義以外の宿題など内職をしている学生さんなどには、ときどき近づいて集中させるというテクニックを使わないと一度何でもいいよという感じでほっておくと授業崩壊し、講義として成り立たないことがあるので講義室内の巡回は最小限にしながら対応せざるを得ません。

２．今後の授業における目標

来年度から見やすくきれいな新しい教科書で講義ができるので学生さんにとって授業の準備や予習・復習にあたり快適になると思います。カラー写真やイラストも多く使っているのでより実生活での体験と結び付きやすいものになるはずです。塩素系洗剤と酸性洗剤を混ぜ、塩素ガスが発生して死亡した主婦の話や新型コロナ対策など、卒業後も安全で健康的な生活できる力を身に着けさらにこの講義で学んだことを周りの人々に伝えることでそれら安全で快適な生活が普及する原動力になっていただける学生さんを少しでも多く輩出できるようにしたい。

毎回実施する講義の感想で「今日学んだことを家族や友だちに伝えたいと思います」のような内容が多くみられ着実に実現している実感を感じています。来年度以降も少しでも多くの学生さんが生活そのものを見つめ直し、よりよい生活を送るための知恵と意識が身に着くよう学び方、考え方などを伝えていきたいと思っています。

３．受講学生に対する要望

ほとんどの学生さんは、とても意欲的に目を輝かせて講義を聴講してくれていて素晴らしい学生さんたちが集まってきていると思います。常に講師やスクリーンに目線を合わせレジュメに正確に重要な語句の穴埋めをしながら重要事項の理解と記憶を着実にしていると感じられます。毎回の終了時に書いてもらう小テストや感想についてもすべての学生さんがしっかりとした内容で書き込み手ごたえを感じています。

しかしながらほんの一部の学生さんは、居眠りや他ごとをしていることが残念です。彼らも注目したがるような演示実験なども今後取り入れながらより魅力的な講義にしていく必要があると思っています。

本学の教職員は　これからも

学生のみなさんの学びをさらに深めるために

よりよい授業づくりへの努力を続けます

学生のみなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。
本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生の皆さんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それに応える形での教員の授業改善、という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行い、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を学生・教員ともに力を合わせて作り上げていきましょう。

総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われています。
令和２年度後期は以下の授業の担当教員が顕彰の対象になりました。

「社会的養護２」